

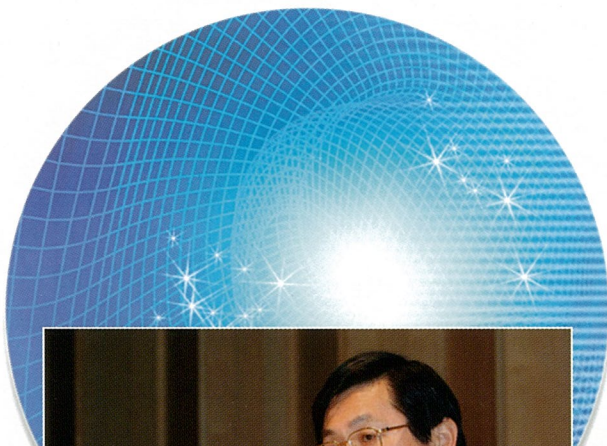
漢方を

● 各科別漢方の生かし方

開会にあたって

後山 尚久 先生

大阪医科大学 産婦人科



1979年 大阪医科大学卒業
 1981年 同大学産婦人科学 助手
 1989年 米国オクラホマ州立大学生化学・分子生物学部門 教官
 1993年 大阪医科大学産婦人科学 講師
 1996年 同大学産婦人科学 助教授
 2004年 The Editorial Board of American Journal of Chinese medicine

日本東洋医学会学術総会は、例年通り「東洋医学シンポジウム」から始まります。本シンポジウムも今年で12回目を迎えます。今回も「診療科の垣根を越えたクロストーク」と「専門領域の知識と技術の臨床現場へのフィードバック」をコンセプトに、実践的なシンポジウムにしたいと考えています。さらに、「西洋医学を学んだ医師の思考ベクトルに基づく漢方医学」を目指したいと思います。

ご承知のとおり、2001年3月のモデルコアカリキュラムを受けて、医学教育に東洋医学、和漢薬のカリキュラムの導入が急速に進むなか、各大学医学部、医科大学では漢方医学教育に従事する実践的な医療教育者の不足に悩んでいます。今まで一度も東洋医学に接したことがない医学生に、東洋医学の基本から臨床応用まで、限られた時間の中でわかりやすく解説することが要求されています。

そこで、本シンポジウムでは、実際の症例の治療に際し、西洋医学に基づく正しい診断を行った上で、漢方薬と西洋薬とのコラボレーションレシピや、漢方薬同士の合方など自由な発想で治療しながら、その効果については誰もが理解可能な言葉で解説をするよう心掛けるつもりです。

本シンポジウムの前半では、小児から高齢者までの幅広い年齢層を対象に、各科領域における具体的な取り組みの実例をご発表いただき、後半では総合討論を行います。コメンテーターには漢方専門医のお立場から峯 尚志先生にご意見をいただきます。先生方の日常診療にすぐに役立つような東洋医学の知識と技術をお伝えし、タイトルにもあります「こんな時には漢方を」を実践できるようなシンポジウムにしたいと思いますので、ご期待ください。

(平成17年5月20日 富山国際会議場にて)